

11. 熊本大学生命科学研究部改善計画書

領域	改善計画 (H27. 3. 31現在)	改善状況① (H27. 12. 1現在)	改善状況② (H28. 12. 1現在)
研究	<p>(次の組織評価までに改善する計画)</p> <p>分野の再編成と質の高い教授選考の人事を推進することにより、引き続き優れた研究成果の発信に取り組んでいく。</p> <p>また、研究業績に関する評価を徹底するために、平成27年度に評価WGを発足させ、評価体制を整備する。併せて、年俸制の導入を推進し、教員資格審査の定期的な再評価について検討する。</p>	<p>平成27年度に、医学系の教授選考を行い、既に1名を採用し、質の高い教授選考を推進した。今後、研究成果の発信に取り組む。また、「がん医学」に特化した先端基礎Ⅱ分野を新設することおよび助教の採用に関して、事前の書類選考と面接の実施について教授会で決定した。</p> <p>さらに、年俸制については、研究部に3名導入し、推進を図った。</p> <p>平成27年度には、研究業績に関する評価を実施し、研究成果の乏しい研究者に対して面談を実施し、アドバイスを提供した。</p> <p>今後は、WGを発足しさらに研究業績に関する評価を充実させること及び、引き続き、教員資格審査の定期的な再評価についても検討することを生命科学研究所運営会議において決定した。</p>	<p>平成28年度に、医学系の教授選考を行い、既に3名を採用し、質の高い教授選考を推進した。今後も引き続き、研究成果の発信に取り組む。また、卓越研究員の採用において、「がん医学」に特化した先端基礎Ⅱ分野を新設し、書類選考及び面接を実施し、11月1日付けで准教授を採用した。</p> <p>平成28年度にも、研究業績に関する評価を実施し、研究成果の乏しい研究者に対して面談を実施およびアドバイスを提供し、今後の研究業績の推進を図った。今後も引き続き、評価体制の整備を推進していくことを生命科学研究所運営会議において決定した。また新規採用の助教に年俸制、任期制を導入するための制度設計を現在行っている。</p>
社会貢献	<p>(次の組織評価までに改善する計画)</p> <p>学内外への周知を徹底するため、研究所で実施されている講演会・講習会等の取り組みについて、全学の教員へ案内状の配布やメール配信を徹底する。また大学及び部局のHPへの掲載や、マスコミへの公表を積極的に行い、公表体制を整備する。</p>	<p>研究所が実施する講演会等の取り組みやTV放送については、学内教職員へのメール配信及びHP掲載での情報提供を行った。(マスコミ報道件数19件)</p> <p>引き続き、大学及び部局へのHPへの掲載等を積極的に整備していくことを生命科学研究所運営会議で決定した。</p>	<p>研究所が実施する講演会等の取り組みやTV放送については、引き続き、学内教職員へのメール配信及びHP掲載での情報提供を行った。(マスコミ報道件数25件)</p> <p>また、大学及び部局へのHPへの掲載等を積極的に推進していくことを引き続き、生命科学研究所運営会議で決定した。</p>
国際化	<p>(2年間で改善する計画)</p> <p>国内外への情報発信について、ウェブサイトの充実を図るため、和文および英文のウェブサイトを更新していく。ウェブサイトの問題点を洗い出し、これを改善する。</p>	<p>和文および英文ウェブサイトの情報を随時更新した。ウェブサイトの問題点について、在籍する留学生に個別に意見を求めたところ、英文ウェブサイトの【新着情報】の充実を求める声が聞かれた。この点について、今後、和文サイトの情報と英文サイトの情報の連動をよりすみやかに図るように改善することを生命科学研究所運営会議で決定した。</p>	<p>昨年に引き続き、和文および英文ウェブサイトの情報を随時更新した。今年度は、英文のウェブサイトを改修する予定であり、更なる充実を図ることを引き続き、生命科学研究所運営会議で決定した。</p>
その他 (男女共同参画)	<p>(次の組織評価までに改善する計画)</p> <p>医学・薬学系については、女性教員の採用比率目標を17%に設定し、保健学系については、引き続き50%以上の割合を維持していき、女性が働きやすい職場を支援する育児休暇及び介護休暇を取得しやすい環境等について記載した幅広い公募を検討し、適任の人材の確保を目指す。</p> <p>また、男女共同参画セミナー・シンポジウムの積極的な呼びかけや、諸制度(育児・介護休業、短時間勤務等)に関する情報提供を行い、部局全体で理解を深め、上位職や部局における指導的地位への女性の登用についても、積極的に推進する。</p>	<p>女性教員採用比率について、医学・薬学系は目標設定に到達するよう、引き続き幅広い公募の検討を行う。また、医学系は15.4%、薬学系は10.2%の割合であるが、保健学系は、50%以上の割合を維持している。</p> <p>男女共同参画セミナー・シンポジウム開催の呼びかけ、諸制度の情報提供、上位職等女性の登用についても、今年度、男女共同参画推進委員会での検討を行ってきており、今後も引き続き検討し、推進する。</p> <p>また、医学部附属病院の男女共同参画委員と交流し、連携を検討している。</p>	<p>女性教員採用比率について、医学・薬学系は目標設定に到達するよう、引き続き幅広い公募の検討を行う。また、医学系は15.4%、薬学系は11.53%の割合であるが、保健学系は、引き続き、50%以上の高い割合を維持している。</p> <p>男女共同参画セミナー・シンポジウム開催の呼びかけ、諸制度の情報提供、上位職等女性の登用についても、今後も引き続き検討し、推進する。</p>